日刊 動労千葉

87. 7. 11

No. 2599

国鉄千葉動力車労働組
千葉市要町二一一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五～六・（公衆）〇四七二（22）七二〇七

国鉄「分割・民営化」反対！三里塚二期工事阻止！

出向は敢然と拒否しよう

臨時委員会で闘う方針確立へ（2）

強制出向にはストも辞さず闘う

五月中旬以降、全国で「出向」攻撃が吹き荒れている。東日本においても六月一日以降百名をこえる「出向」が強行されている。出向攻撃は、動労千葉や国労を職場から追い出し、生活や組合を破壊する悪辣な攻撃である。同時に、「出向先」の労働者をも玉つきで『首』においこむものだ。絶対に粉砕しなければならない。第十七回臨時委員会において、闘う体制を打ち固め、総反撃へ打って出るために、職場での徹底した討論をつくりだそう！

まずは本人がキッパリと拒否すること

四月二八日、出向に関する東日本本社人事担当者会議において小平人事担当部長は「八千から一万人といわれる余剰人員は、新会社の経営を揺るがしかねない」「『企業内失業者』（＝余剰人員、フザケた言い方をするな！）も自分の給料は稼いでもらわなければならない」「温室の者（社員）を木枯しや酷暑の環境において（出向先）意識改革を行うことは社員管理上必要、真剣に取り組む」と、どしどし出向に出すと言っているのだ。

この間、当局は国労の提訴により出された地方労働委員会からの「出向凍結」の勧告さえ無視して強行している。

しかし、当局の出向攻撃はあらかじめ無理を承知で強行していることは明らかで、あらゆる学説、判例はあくまでも「本人の同意が必要である」と言っている。

西日本の米子においては、「本人の同意」をとりつけるために「個別面談」を行い、「いやだと言ってもだめだ」「拒否したら広域異動で一番遠くに出してやる」などとおどし、保証人を使い家族にまで揺さぶりをかけた。それでも「行かない」と拒否した人は発令されず、「内命が出たら行く」と言わされた人が出されている。

また、東日本の出向先の会社からは「国労の活動家に来てもらっては困る」と受け入れを断っている会社が続出している。

出向攻撃にはストを含む闘いで反撃するぞ！

当局の出向をはじめとした無法、不当な生活破壊、組合つぶしが、動労革マルの率先協力によってどんどんエスカレートしていることは明らかであるが、こうした攻撃に反撃もせずにズルズルと後退している国鉄労働運動の側にも重大な責任があることも明らかだ。

今、「新会社」はそれこそ映画「野麦峠」に写し出されていた状況へと向かっている。しかし、「野麦峠」の「女工」達も、そしてあらゆる労働者も、労働組合をつくるために、自らの権利・仲間を守るために、権力や会社からの弾圧に、時には命を投げだして闘ってきた。

強制出向、強制配転、「ボーナスカット」、小集団による「タダ働き」。すべてが差別処分、恫喝で労働者をおさえこむための攻撃だ。こうした攻撃に屈服したら、さらなる地獄がまちうけている。

七月十八日の第十七回臨時委員会に、大傍聴団を決起させ、「強制出向」にはストも辞さず闘う総反撃の体制をつくりあげよう！

こんなフザケた出向攻撃を許せるか！

四月二八日の東日本本社での出向に関する人事担当者会議のなかで次のようなムチャクチャなことを言っている。

○出向は人事異動の一環
（判例や学説について全く無視！）

○人選―いろんな者が入っていることが望ましい。
（誰でもかまわない）

○出向期間―通常の人事異動の一還だから期間を明示する必要はないことになる。
（行ったら最後戻ってこれない場合もありうる）

○出向先一会社当りの人数―「分散配置」
（一つの会社にまとまった人数を出すと組合活動する恐れあり、バラバラにしろ）

○賃金―出向基準で得られる賃金水準は、全体的に低いものであり、当面いろいろ係争が予想されるので会社基準で行う。
（当面はもめごとがおきることはさけられないから会社基準で行うが、その先はわからない）

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉砕せよ！